



島津琉球軍精記
五

^ 13
3299
5



門へ13
3299
5

明治十九年
萬國博覽會
戊一月

萬國博覽會
海陸軍精記卷之五

目錄

一 新納武藏守軍節
（以下有細字）

新納武藏守軍節
（以下有細字）

大正十八年
本大學出版部

鴻津琉球軍指記卷之五

新納氏と海軍所と女軍

年号令人教ふ記と年号

前漢乃史記東方朔武帝征諫言曰

百万の強敵と思ふと車馬の思ふと

傾國の一婦人の新納一氏が計畧

焉と帝と善女と人との

琉球國といふり女軍と女軍

Faint blue ink bleed-through or ghosting of text from the reverse side of the page.

知らのふりてん城のまゝ白旗の
強弱出頭のしつとていふ事を知り
まゝとていふ事を知りていふ事
あつていふ事を知りていふ事
まゝとていふ事を知りていふ事
一氏とていふ事を知りていふ事
小守大隅の山崎の地味との
とていふ事を知りていふ事

毒とていふ事を知りていふ事
あつていふ事を知りていふ事
まゝとていふ事を知りていふ事
一氏とていふ事を知りていふ事
小守大隅の山崎の地味との
とていふ事を知りていふ事

と少々先号令と記しきしを
大守と陣ししゆては軍とて
指揮するの軍師の如きなり
命ししは諸士らに
何事なく承来が事なれば
少くも人知るべし
諸軍は
号令なりと記ししゆては

為りねがひしゆては
百一に小隊人など
少くも人知るべし
而時ししは
あつて其身中央に
命ししは
琉球國と記ししゆては

公物と取(り)て名(な)を(な)す(す)る(る)縁(ゆかり)は(は)お(お)も(も)ろ(ろ)人(ひと)事(こと)成(なり)
 ち(ち)て(て)は(は)物(もの)中(ちゆう)新(にい)洲(しゅう)我(われ)軍(ぐん)所(しよ)
 と(と)ま(ま)し(し)る(る)の(の)を(を)諸(しよ)士(し)何(なに)と(と)も(も)一(いつ)氏(ぢ)か(か)ら(ら)知(ち)
 不(ふ)忠(ちゆう)と(と)も(も)軍(ぐん)行(ぎやう)と(と)も(も)魂(たま)と(と)も(も)事(こと)
 教(きやう)を(を)一(いつ)に(に)又(また)一(いつ)に(に)一(いつ)に(に)
 城(じやう)改(か)め(め)る(る)軍(ぐん)所(しよ)に(に)人(ひと)好(この)む(む)事(こと)
 未(ま)か(か)ら(ら)れ(れ)事(こと)は(は)小(こ)に(に)も(も)一(いつ)に(に)一(いつ)に(に)

遠(とほ)く(く)の(の)り(り)に(に)は(は)さ(さ)く(く)と(と)も(も)海(うみ)
 依(よ)り(り)て(て)是(こゝ)に(に)一(いつ)に(に)一(いつ)に(に)
 未(ま)か(か)ら(ら)れ(れ)事(こと)は(は)小(こ)に(に)も(も)一(いつ)に(に)一(いつ)に(に)
 未(ま)か(か)ら(ら)れ(れ)事(こと)は(は)小(こ)に(に)も(も)一(いつ)に(に)一(いつ)に(に)
 未(ま)か(か)ら(ら)れ(れ)事(こと)は(は)小(こ)に(に)も(も)一(いつ)に(に)一(いつ)に(に)

親睦の法を講じしとて後七人の
川原を以て軍作の成るるを
おのいしをふりて所別大馬の命を
いりてしるべし波國の軍内しく知れた
ふりて平海海の内をふりて陣後
陣ありし日の旗屋のふりてしるべし
諸士二月十日に於てしるべし
しるべししるべししるべししるべし

くまのつねが長十郎年四月十六日
一天く軍師成るる一兵を越え
しるべし中央ふりてしるべし
法後と知るる中央大公をた
義經右衛門正成なりししるべし
是子孔の姓名と書記しるべし
一振つとゆき番徳下しるべし
の沖浦流るるしるべし新洲成るる威徳

一 故人ありて後、男女教書の夏
 一 既、家に入りて、礼儀、積習、事
 一 進退、挨拶、引合、高、お遣、入、事
 一 歩、百、公、士、先、急、と、願、事、夏
 一 去、年、を、概、不、足、入、事
 一 一、物、迄、年、い、志、恨、と、合、後、り、事
 一 今、と、悔、ん、下、誠、記、入、事
 一 右、を、傳、へ、望、中、お、守、達、夏、の、事、有、り、事



於、い、莫、た、く、懇、切、有、る、を、却、て、罪
 科、と、す、り、の、也

長、十、四、百、年、四、月、十、六、日

一 先、備、た、く、一
 一 先、備、た、く、一
 一 先、備、た、く、一

八、十、五、日、
 程、海、大、膳、貴、明

鐵	弓	去	萬	總	鎗	弓	領
之	之	之	之	之	之	之	之
槍	槍	槍	槍	槍	槍	槍	槍
人	人	人	人	人	人	人	人
日	日	日	日	日	日	日	日

徒	騎	弓	鐵	鎗	海	大	騎
士	馬	五	炮	馬	船	船	馬
五	三	五	三	四	四	四	四
槍	百	槍	百	槍	槍	槍	槍
人	人	槍	槍	槍	槍	槍	槍
日	日	日	日	日	日	日	日

一 先備右之一

二百
里見之月松秀久

鉄炮之百枚

二百九十八

願五騎

弓之百張

日

日

鉄之百筋

日六百人

日

騎馬之百人

日

日

徳紅土率

之百人

日

萬口土率

之百人

日

大鉄土率

之拾人

日

貝土率

之拾人

日

透土

之拾人

日

里見大門新騎馬弓之四拾人

鉄土筋

鉄炮之拾枚

人数合式方之百七拾人

二陣左

鉄炮百枚

人数合式方

願五騎

知和解申道居

弓 百枚 日弓

鎗 五拾筋 百人

知物解由弓也之拾人

一 二陣石

昔々名 江中三命馬重綱

預炮百枚

火筒拾人

預水筒

弓 五拾張

日百人

日弓

槍 五拾筋

日弓

日弓

江中三命馬重綱之拾人

一 三之備

預炮 式百枚

火筒拾人

預水筒

弓 式百張

日弓

日弓

騎馬 式百人

日弓

後士 百人

日弓

楯之拾丁

生年式百人

日弓

昔々名 秋月左衛門之通

右林月うしろづきの格くわく式しき有ある。月つき一いつ不ふ列りゅう次じ
秋月あきづき右邊みぎのへら尉ゑい馬ま山やま下した百人ひゃくにん

一 弓ゆみ之の備び 松尾まつお年とし人ひと務つと國くに

換か炮ぱう百ひゃく枝し 強つよ子こ之の指さし人ひと
弓ゆみ百ひゃく張ぢやう 右みぎ引ひ引ひ

力ちから者もの百ひゃく人にん 長なが柄へ
細こ引ひ 細こ引ひ 左ひだり鞍くら 風かぜ標ひら
細こ引ひ 細こ引ひ 左ひだり鞍くら 風かぜ標ひら 雜ぞう兵へい子こ

子こ人ひと頭かぶ式しき人ひと 強つよ馬ま
騎か馬ま守まも之の人ひと 細こ換か炮ぱう五ご拾じゅう枝し 頭かぶ式しき騎か
侍し之の拾じゅう人にん馬ま 松尾まつお年とし人ひと 擇えらみ

一 弓ゆみ之の備び 拾しゅう音おん石せき 作しやく野の市し刀たう形かた政せい

換か炮ぱう百ひゃく枝し 式しき引ひ 強つよ子こ之の指さし人ひと
騎か馬ま百ひゃく人にん 日ひ引ひ 頭かぶ式しき騎か 強つよ子こ之の指さし人ひと

徒士武者百人 武弓

雜兵五百人

總兵武百人

侍之指立人馬

換炮五拾挺

指武百本

頭五騎

佐世帶刀押

一六之備軍師

十二石 新納武藏守武

弓百張

武弓

備十丁武弓

鉄炮百挺

弓

侍百人

無馬しりあし

馬しりあし百人

次新納武藏守馬中

騎馬しりあし百人

一百石 花房小形部

月しりあし百人

一百石 之好典 膳

月しりあし百人

無馬 花房武庫

日 五百人
日 月
日 百七拾人
日 百七拾人
日 百七拾人
日 百七拾人
日 百七拾人
日 百七拾人
日 百七拾人
日 百七拾人

八千石 池田親左衛門
千石 小杉左衛門
千石 濱宮波門
日 二里藤内
日 浦島立水
日 知海基五左衛門
日 大島三郎左衛門
日 天孫新左衛門

日 百人
日 七拾人
日 八拾人
日 八拾人
日 七拾人
日 七拾人

千石 藤原清部
千石 中條左門
千石 中村右近左衛門
千石 和手清左衛門
千石 本戶清左衛門

惣押 千四百人

武百八千石
米倉右三郎

小舟結子六百五拾丈
後舟七子六百九拾五丈
車 拾四物 車子百人

後陣

鈴木内務卿重郷
吉崎全勝
有馬外記

二千十人
百人
日

氏乃春右馬
小湊指右馬
梅田武吉
大和田形次
横須賀左膳
米田十左馬
丹平小吉
長谷川武部

百五拾人
武百人
三月
武百人
武百人
日

今村半翁
且水鞆負

惣目

二百人
三百人

永井鞆負元勝

永千人

岩左衛門

百人

伊井権左衛門

武百人

吉田左衛門

百人

龜井左衛門

月

玉次重丹

武百人

河端主膳

百人

園主

之百人

中川大助

百人

佐久間彦希

武百人

惣人数四百六十人

外人数

惣人数七百六十八百七拾五人

以外権云々

海津大内務

是百人

日 玄蕃

之千五百人

日 主税

之千四百人

日 左京

之千一人

日 内通

千一人

日 監物

千五百人

日 右京

五百人

左近

千人

至反

千五百人

惣数六百八十二名

右之輩は海津の家門ありて十家の大名

とて稱する事あり

海津琉球軍精記卷之五 終

